



シティー・リゾート、クアラルンプール

元 Sin Heap Lee - Marubeni Sdn. Bhd.
(2009年4月日本に帰任)

江坂 喜達

マレーシアの首都・クアラルンプール、通称「KL」。KL国際空港でまず不思議に思うのが、マレー語、英語と並ぶ日本語の案内。マハティール前政権時代から続く「Look East Policy」は、日本の集団主義と勤労倫理を奨励しており、お陰で、国民は非常に親日的です。

また、英国領土であったため、KLはほとんどの場所で英語が通じますが、マレー語の影響で、英語を話す時にも最後に「Hi」を付ける習慣があります。マレー系はもちろん、華人やインド系の留学帰りのエリートで、流暢な英語を話す人でも、この独特のアクセントを使う人が多く、初めて耳にした時に



写真上) 約5,000haにおよぶ新首都・プトラジャヤモスク (左) と首相官邸



写真左) ペトロナスツインタワーは、ツインタワーとしては世界一高い88階建てモスクに似た尖塔が特徴的

は別の言葉を聴いているようでしたが、怖いことに今では、欧米人と話していても、自ら「OK Lah」とつい口ずさんでしまいます。

マレーシアは原油輸出国であり、新首都プトラジャヤや、KLのランドマーク「ペトロナスツインタワー」などは、その豊かさの象徴です。街ではモダンなショッピングモール、マレー風・イスラム風のドームやアーチがあるエキゾチックな建物、英国領土時代の格式あるヨーロッパ建築、アジアンパワーを感じさせる中華街・インド街…と、さまざまなデザイン・建物を観賞できます。

マレーシアの人口は、マレー系、中華系、インド系で構成され、宗教の違いから他の民族との婚姻は少ないので



100年以上の歴史を持つホテル。元英国の迎賓館で、エリザベス女王も宿泊した。本格的アフタヌーンティーが楽しめる



国王宮殿。国王（アゴン）は当地の9州の首長（スルターン）より5年任期で選ばれる

ですが、それぞれの生活習慣を融合した独特な衣・食・住文化に触れられるのも、KLならではの楽しみです。イスラム国家ですが、イスラム法で許されているハラルの食べ物だけではなく、豚肉やお酒も比較的自由に味わえ、本格的な中華、インド料理を楽しめます。中華系移民発祥の、豚肉を煮込むバクテー（骨肉茶）などが特に有名です。

熱帯雨林地域のマレーシアは、昼間は三二〜三三°Cを超えることがほとんどですが、KLは緑も多く、朝晩は二二〜二三°Cと、避暑地のような安らぎも感じられます。最近では日本人の海外長期滞在先として、アジア人気ナンバーワンになっているようです。皆さんも、ゴルフ、エステ・スパ、グルメ三昧のシティー・リゾートへ、ぜひお越しください。